

平成 29 年度 住宅地盤技士（調査部門） 正解および解説

問題	正解	解 説
1	2	断面は河川側が急で外側が緩傾斜となることが多い。
2	1	扇状地
3	2	土の含水比は、土粒子の質量に対する間隙に含まれる水の質量の割合を百分率で表したものの。
4	4	簡単に洗い流せるのがシルトで容易に洗い流せないのが粘土。
5	4	20m程度以浅の沖積層。
6	3	土地条件図は地形区分ごとに色分けされている。
7	2	(B) 地点は、自然堤防。
8	3	竹は絶えず豊富に地下水が供給されている場所を好む。
9	1	SPT サンプラーは乱した試料として取扱う。
10	1	ロッドの周面摩擦の影響を受ける。
11	4	手動式のおもりの種類。
12	3	局所的に問題がある場合は必ず原因があると考えなければならない。
13	3	W_{sw} と N_{sw} より 75.0kN/m^2 、 12.5N より 62.5kN/m^2 が得られる。
14	1	乱した試料は、圧密試験や三軸圧縮試験には利用できない。
15	3	地山の確認には、ボーリングや動的貫入試験が考えられる。
16	2	埋立のような人工地盤はとくに注意が必要。
17	4	計測データは勝手に低減してはならない。
18	3	こね返しによる強度低下が著しいため、盛土材には適さない。
19	3	水抜き孔は 3 m^2 に少なくとも 1 ヶ所かつ 75mm 以上と規定されている。
20	2	突き固めは省略できない。
21	2	異種基礎ではない。沈下を抑制したいときに多く用いられる。
22	1	配合試験で確認できれば問題はない。
23	3	改良土量 200 m^3 未満に 1 ヶ所。
24	2	支持層が 30 度以上傾斜していると、改良体全体が定着できないことが問題。
25	2	必要に応じて土間コンクリートにも配置する。
26	3	配合試験で確認できた場合で 250 kg/m^3 を下限値とする。
27	4	鋼管長と鋼管直径の比が 100 を超える場合。
28	1	$\pm 0 \sim -30\text{mm}$ の範囲。
29	4	地盤によって決めるとは限らない。
30	1	合理性

2 1 に訂正